

## 今後10年は

## ジバ観に関わりたいた

## 思うようになった

四国で最も有名な場所の一つ「こんびらさん（金刀比羅宮）」がある香川県琴平町では、町役場や地域おこし協力隊のメンバーが中心となって、2016年9月からジバ観を実施し、5回にわたって協働チーム会議を行った後、2017年2月にみんなゴト会議「琴平ゴトコト会議」を開催した。その琴平ゴトコト会議の次の日、そのチームメンバーのうちの9名とジバ観チームのファシリテーター2名、合わせて13名で、5カ月あまりのプロジェクトを振り返った。ここでは、その模様を紹介することで、琴平でのジバ観の全貌を紹介したい。

**アイデアは町民みんなが持っているのに実現する人がいなかった**

まずは、なぜジバ観を始めようと思ったのかを教えてください。

**森本** 琴平町のこんびらさんには、年間300万人弱の観光客が訪れます。また、実は香川県はニンニクの生産量が全国2位で、なかでも琴平町は県内一のニンニクの生産地です。こうした資源や強みがあるというところにもかわらず、町



琴平コアチームメンバー：森本、じゃす、よっしー、ようよう、ざっきー、こんたろう、ちえ、すみっち、うる  
コクリエーター：むー、しの

民が使う商店街には空き店舗が目立ち、シャッター通りになってしまっています。以前から、私はこの状況を残念に思っていました。琴平のみんなが垣根を越えて、さまざまリソースを活かして新たな取り組みを進めていけば、琴平はもっと良くなる。そして、琴平を子どもたちに自慢できるまちに、外に出て行く子どもたちがいずれば帰ってきたくなるまちにできるのではないだろうか。その思いから、コクリ！（当時はまだ「ジバ観」と

いう事業名がなく、コクリ！と呼んでいた）を実施しようと思ったのです。それで、2016年3月に一度、琴平町でじゃらんリサーチセンター主催の「地域コ・クリエーション」のセッションを行ってもらった上で、9月からジバ観を行うことが正式に決まり、まずは町役場で働く私が、町長などと相談した上で協働チームのメンバーを選んでいきました。

**ちえ** それまでほとんど話したこともないのに、ある日突然、森本さんが私のところにやってきて、ジバ観に参加しないかというのです。詳しく話を聞いてみたら、それはいいことだと思ったので、やってみようと思いました。

**うる** 私は3月のセッションに出て、「まちのみんなでもちづくりを進めていく」という方針に共感して、参加を決めました。

**すみっち** 僕も3月のセッションの続きがないかと思っていたので、喜んで参加しました。特に僕が問題に感じていたのは、青年部が小さくなってしまったことです。現在は10人くらいしかおらず、町の祭りを続けるのも大変になっていました。ジバ観を通して、いろいろな人や団体とつながり、祭りなどの活動にも巻き込んでいけたらという思いがありました。

**ようよう** 私は、3月のセッションに参加する前に、ジバ観の母体となった「コクリ！プロジェクト」のWebサイトを自分なりに調べて、「これだ！」と思って参加を決めました。なぜかというと、以前から、みんなで1つのことに向かいたいと思ったとき、いつも行政と町民の間に壁を感じていたからです。ジバ観なら、その壁を取り払えるのではないかと感じて、参加を決めたんです。とはいえ、1回目の私の第一声は「不安です」でした。今後10年、20年と、自分にジバ観を続けていく覚悟があるかどうかを考えてしまったからです。

**じゃす** 実は、ジバ観の母体となって



いる「地域コ・クリエーション」のことを琴平で初めて知ったのは、地域おこし協力隊の私とよっしーでした。2015年の秋、私たちは勉強のために、高松市で行われたじゃらんリサーチセンター主催の「観光振興セミナー」に出席しました。そこで、三田愛さんから「地域コ・クリエーション」の話聞いて、琴平町のまちづくりのイメージがいろいろ膨らんだんです。帰りの電車のなかで、2人でワクワクしながら「こんなことができたらいいね」と話し合ったのはつきり覚えています。

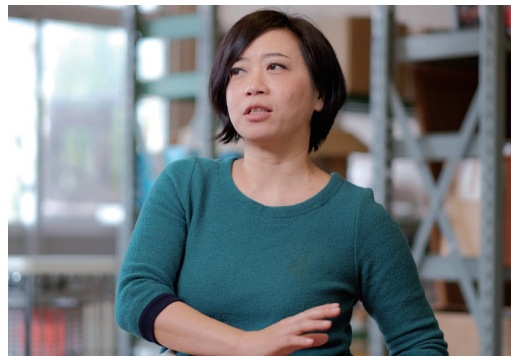
**よっしー** 私は地域おこし協力隊として、「まちづくりのアイデアは町民みんなが持っているのに、それを実現する人がいない」という課題を感じていて、その課題を解決できるのはジバ観だろうと考えるようになっていたので、ジバ観に参加できると聞いたときは、本当に楽しみでした。ただ、一方では怖さや不安もありましたね。「本当にできるのかな？」と感じたからです。

**ざつきー** 僕は地域おこし協力隊なのですが、自分一人だけ観光工課に所属していて、普段は総務課の協力隊メンバーとは違う仕事をしています。そうしたらある日、じゃすやよっしーたち、総務課の協力隊メンバーから「手伝ってほしい」と声をかけられたんです。軽い気持ちで来てみたら、ただの手伝いではなくて、チームメンバーでした（笑）。そこから何も知らずに始め、試行錯誤いろいろと学んでいきました。



**こんたろう** 僕は2016年7月に地域おこし協力隊に入ったばかりで、9月からジバ観が始まるから手伝ってほしいと言われて、ざつきーさんと同じように、とりあえずゼロから参加してみたりです。

**「2/26」が決まったらみんなが一齐に動き出した**  
では次に、ジバ観の中で特に大変だったことを教えてください。



**こんたろう** 序盤で悩んだのは、モチベーションの維持です。というのは、サポート役として入ったつもりが、いつの間にかコアメンバーになっていたので、自分の立ち位置がわからなかったのです。僕は普段、地域おこし協力隊としてふるさと納税を担当しており、年末年始は特に作業が集中する時期でジバ観に十分な時間が取れず、このまま中途半端に参加していて、本当に良いのだろうかと思った時期がありました。

**ざつきー** 僕も立ち位置に悩みました。特に最初はわからないことばかりで、たとえばジバ観がどういったものなのかも自分によくわからず、周囲に聞きにくい雰囲気がありました。ファシリテーションの経験があったので、行われていることには納得感がありましたし、自分が琴平でやりたいことをやっていく上での学びの場としては最初から面白かったんですけどね。あと、大変というよりは反省なんです。仕事に忙しい中で参加していた皆さんは本当に大変だったはずで、もっとフォローできたのではないかと感じています。

**ようよう** 私の場合、事前にジバ観へのイメージが大きくなりすぎたために、最初はイメージと実際の場にギャップがあつて、「腑に落ちん」とよく言っていました。周囲のメンバーに相談しながら、少しずつイメージギャップを埋めていきました。それから、私もやっぱり、生活・仕事・日頃の活動との両立が難しかったです。

**よっしー** 私は、みんなの位置を確認しながら自分の位置を確認していったのですが、みんなが変わっていくときに、自分がなかなか一緒に変わっていけない部分があつて、そこは苦労したかもしれません。

**ちえ** 自身は参加してずっと楽しかったんですけど、会議で話していることがわからんことばかりで、自分は迷惑かけていないだろうか心配していました。

**ようよう** 全然迷惑ではなく、少なくとも私は本当にちえちゃんに助けられた。ジバ観の場を一番活性化させてくれたのはちえちゃんだったから。

**すみっち** 僕はちようどこの時期、いろんな事業が重なって、なかなか積極的に参加できなかったのが心苦しかったです。

**森本** 私はジバ観には行政側ではなく、一般町民として関わっていくという覚悟を持って臨んだのですが、そうは言っても役場の職員と見られることも多く、そのバランスをどう取るのかが難しかったです。あと、3回目、4回目くらい

に、みんなが不安を感じて戸惑っている。私たちが何を目的にやっているんだろう？」と悩んだ時期があるんですね。そのときは、「人と人がつながることとはこれほど難しいのか」と感じましたし、本当に琴平コトコト会議を実現できるのか、不安に思いました。ただ、言い出しつべの僕がみんなにその気持ちを話したら、全員的心も揺れてしまうと思つて、ぐつと我慢しました。ところが年が明けて、2/26に琴平コトコト会議を開くことが決まった途端に、みんなが一齐に動き出したんです。ホツとしましたね。

ただ、今度は「情報共有」が問題になりました。今回は特にリーダーを置かなかったのですが、情報共有がなかなか進まなかったんです。情報共有さえうまくできていたら、もつとスムーズに進められたことが多かったんです。それでも、琴平コトコト会議を無事に開催できたのは、ひとえにみんなの「情熱」があつたからに違いありません。みんなのモチベーションは本当に高かったと思います。

**この辺りに関して、ファシリテーターの2人はどう思いますか？**

**むー** 正直、1回目から3回目までは、あまりうまくいっていない印象がありました。ワークが上滑りしている感があった。このままだと自分たちがいなくなつたら、ジバ観の動きもなくなってしまうと感じていました。おそらくポイント、「ジバ観の世界観をどうわかってもらうか」だったと思うのですが、こればかりは教えることではなく、皆さんに悩みながら自分たちで考えてもらうものなので、葛藤を抱きながら我慢していた

部分があります。その意味では、ちえちゃん「わからん」という正直な言葉がありがたかったんですよ。その言葉をきっかけにして、みんなが考えるようになりませんか。

**しの** 私も、皆さんから一歩離れたところをキープするのが大変でした。皆さんが「このステップを踏めば、次の段階に行ける」とわかっている、私が答えを言ったら何にもならないので、言わないで待つしかないんです。これは難しいことでした。

### 引いた視点から 眺められるようになった

**ターニングポイントはどこにありましたか？**

**ようよう** 3回目のときに、琴平の現状を見るために3人1組で半日歩きまわした。そこで私自身が、琴平は観光の町だと決めつけていたことに気づき、悔しくなりました。そして、まちのベースは、やはり子育てにあるべきだと改めて思いました。それ以来、私は、安心して子育てできるまちを創るために役立ちたい

いと、自信を持って言えるようになりました。

**ざつきー** 5回目のとき、「ジバ観とは？」にもう一度立ち戻って、資料を見直したんです。そうしたら、「まちの皆さんのつながりをつくるために行うのがジバ観です」と書いてありました。もちろん初めから書いてありましたが、初めにきちんと読んだのですが、5回目ようやくその意味が腑に落ちたんです。

**ちえ** ある回の宿題で、まちの人たちにインタビューをしたんです。私は若者た

ちにインタビューしたのですが、彼らとの対話で心を洗われました。私は、彼の未来のためにいろいろしなければならぬことがある。そう思ったときが、ターニングポイントですね。

**よっしー** ターニングポイントはいくつもありました。たとえば、自分が何のために行動するのかが変わっていきました。「とりあえずやってみよう」から始めて、「チームの仲間のために頑張ろう」に変わり、さらに「チームの仲間とまちの人のために動きたい」と変わっていきました。

**こんたろう** 僕の場合、ほぼ毎日がターニングポイントでした(笑)。最初は来たばかりで、宿題でインタビューする相手を見つけることがまず大変だったくらいです。それが徐々に変わっていった感じです。

**じやす** 年明けに、森本さんから「じゃすはどうしたい？」と問いかけたとき、「自分がどうしたいか？」だけじゃなくて、「周りの人がどうしたいのか？」を考えるようになりました。良い意味で、引いた視点から眺められるようになったんです。

### みんな、こんなに 琴平のことを想っているんだ！

昨日の「琴平コトコト会議」は、いかがでしたか？

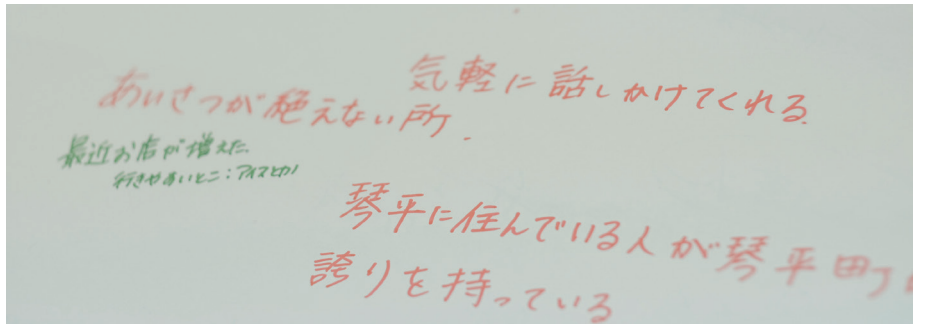
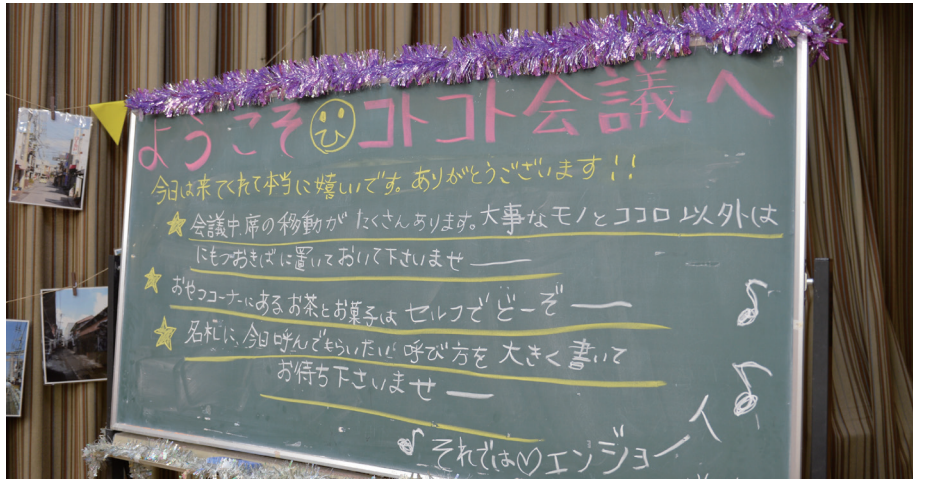
**ようよう** 昨日はプレーヤーとして参加したつもりでしたが、どうしてもどこかにホストの意識があったと思います。もつとまぐ話を引き出したら良かったのにと、思うところがありました。次は、みんながもつといろいろと話せる場になりましたと思っています。

**こんたろう** いろんな人と話せてよかったです。人によって、琴平の見方が全然違うことがわかったのは、僕にとって大きな収穫でした。

**森本** 個人的には、みんな思っていることは違うのだと再確認できたことが大きかったです。あとは、高校生の存在が新鮮でしたね。

**ちえ** 私も高校生たちの輝きが心に残っ





ています。大人たちが「こういう場で高校生と話せてよかった」とアンケートに書いていたのも印象的でした。

**ざつき** 参加者の皆さんが「あーしたい」「こうしたい」という話ばかりしていて、楽しかったです。「みんな、こんなに琴平のことを想っているんだ!」と、ステキなまちなみであることを再発見できました。

**すみっち** 琴平ココト会議の最後に、自分が次回のアナウンスをしたので、終

わった瞬間から

もう次が始まっている感じがしています。今回は、参加者としては楽しめたのですが、一方で全体をあまり意識できず、批判的発言に対応できなかったりした面もあります。そうした反省を活かして、次に活かしたいと思いますね。

**よっしー** とりあえず開催したのはよいけれど、どうやって次につなげていくかが課題だと思います。本当は、もっと前からそのことを話していなければならなかったのだと思います。

**じゃす** まだ昨日の場が良かったのか悪かったのか、判断がつきません。きつと2回目、3回目にどうなるかで、第1回のココト会議の意味も決まってくるのだと思います。

**終わった瞬間から  
もう次が始まっている**

周囲の反応はどうでしたか? また、これからどのように活動していきたいと思っていますか?

**ようよう** 普段から「えほん文庫」を開いている仲間たちがいるのですが、彼女たちから「もう次のココト会議に参加したくてたまらない!」と、昨日の今日で早速声をかけられました。「えほんカフェ」を開いて、自分たちでも対話の場を創ろうという話も出ています。本当は他にも呼びかけたお母さん方が何人もいますから、これからは対話の輪を広げていけたらと思います。また、チームにも新たな仲間を入れてもよいかもしれません。

**こんたろう** 僕も関わる人は多いほうが良いと思います。

**ざつき** 僕も前向きな反響を多く聞いていますが、男性参加者の声をまだあまり聞けていません。女性はそもそも話し好きな方が多く、ココト会議のような場にもすんなりと入っている方が多いと思うのですが、男性はどうだったのか。詳しく知りたいところです。

**よっしー** コト会議で出た面白いアイデアを、その場で終わらせるのはもったいないですね。なんとか実現する方向に持っていけたらと思っています。

**ちえ** 私はチームやまちのみんなの良いところをできるだけ引き出せていけたらと思っています。

**ようよう** 子育て中のお母さん方にとって、4時間も子どもを預けなくてはならないのはちょっと難しいという声がありました。場合によっては、もっと短いバージョンがあってもいいかもしれませんね。

**こんたろう** 僕自身は、今後10年はジバ親に関わりたいと思うようになりました。今後は、まち全体のココト会議とは別に、テーマやコンセプトごとの「分科会」があってもいいと思いますね。

**森本** とりあえず、昨日の第1回ココト会議がうまくいったことは大きな自信につながると思うのですが、個人的には昨日が終わったのではなく、昨日から始まったのだと感じています。昨日の成功よりも、次につなげることのほうが大事です。種火は放っておくとどんどん小さくなっていきますから、今後は参加者の皆さんをフォローし、その声を丁寧に聞き、種火をどんどん大きくしていきたいと思っています。

